



**2018年度 年主題〈イエス様とともに生きる～愛の交わりの中で〉**

**0・1・2歳児 2月主題 「いっしょに」**  
 月のねがい  
 ◎寒さの中にも神さまが春を備えていて下さることを感じる  
 ◎保育者や友だちとやりとりしながら模倣遊びを楽しむ  
 ◎全身を動かしたり、手や指を十分に使って遊ぶ  
 ◎いろいろな活動を通して、友だちや保育者と一緒に遊ぶ楽しさを味わう

**3・4・5歳児 2月主題 「響き合う」**  
 月のねがい  
 ◎神さまがくださった互いの賜物に気づき、より深い親しみと喜びを感じる  
 ◎友だちと想いを伝え合う中で、違いを受け入れたり、折り合いをつけたりしながら協力する体験を重ねる  
 ◎友だちの喜びや悲しみに寄り添うようになる



**表現の楽しさとその世界に・・・**

おゆうぎ会を迎えると、もうすぐ卒園・進級と別れの季節が忍び寄ってきているのを感じます。子どもたちはそれぞれのクラスの雰囲気から、一つずつテーマを決めておゆうぎや劇を取り組んでいます。与えられたテーマや表現に子どもたちがいかに近づいて役になりきっていくのか…。私たち職員は、子どもたちがその世界にはまった瞬間を楽しんでいます。保護者の方には、完成したのを見ていただくのですが、本当はその過程こそ見ていただきたいと思っています。

私は、子どもたちと作品を作り上げることや、クラスが一つにまとまることを肌で感じることができるとおゆうぎ会が大好きです。もう随分前ですが、園ではまったくおしゃべりや体操やかっこをしない女の子がクラスにいました。年長児の時に受け持ったこの子は、実はこども園が大好きで、本当はおゆうぎもかっこも大好きでした。この子にとって最後になるおゆうぎ会でしたので、少しでもみんなの前で表現ができ、そして楽しかったと思えたらと願いながら進めたものでした。そんな時に助けてくれたのは、やっぱりクラスのこどもたちです。手を上にあげる仕草は、周りの子が後押しをし、「先生、着物のお遊戯したいから音楽流して！」と園庭で遊びながら楽しんでいたのです。この年のお稽古は園庭でやるのが多かったのはそういう訳です。そして本番は、かわいい着物姿で立派におゆうぎをしていたことを思い出します。従来の型にはめず、遊びの中で表現を楽しめたこと、子ども同士が構えることなく過ごしていたことが、よかったのかなと思う事でした。本番はその時の結果しか見えませんが、ここに至るまでの背景も想像しながら楽しんでいただけたらと願っています。

森山



**今月の聖句 「主よ、お話しください。しもべは聞いております。」**  
 I サムエル3:9

今月は幼児時代のサムエルについて考えます。サムエルは紀元前1200年ほど前のイスラエルの子どもでした。彼が夜寝ているとき、不思議な声を聞きました。神さまが彼に語りかけられたのです。このとき、彼は表題のような発言をして、神の声に耳を傾ける人になりました。長じて、サムエルはイスラエルの預言者となり人々の心の支えとなる人になりました。

羊飼いの少年ダビデをイスラエルの王にまで育てたのもサムエルでした。彼はいつも神の言葉に耳を傾け、行動しました。めいろうこども園の園児のみなさんも、第2、第3のサムエルに続く者となってほしいと思います。

前理事長・牧師 池田公榮

**2月の行事予定**

2日(土)	おゆうぎ会
4日(月)	振替休日(1号)
13日(水)	2・3月誕生会
15日(金)	卒園生写真撮影
19日(火)	冬の一日遠足 ※弁当日
21日(木)	シオンの仲間大会
27日(水)	保育参観(あじさいたんぼ)
28日(木)	保育参観(すみれ・こすもす)

**3月の行事予定**

4日(月)	絵本の会ラスト公演
7日(木)	お別れバイキング
16日(土)	卒園式
19日(火)	修了式(1号午前保育)
29日(金)	新学期準備のため休園
30日(土)	〃

**2・3号認定児 新規入園申込受付期間**  
**1/28(月)～2/1(金)**  
 定員に限りがあります。お早めに市福祉事務所へお申込み下さい！

**お知らせ**  
 先般実施しましたお年玉募金にて、23,430円集まりました。貧困対策等に役立てられるよう日本国際飢餓対策機構に送金致します。子どもたちと皆様の分かち合いのお気持ちに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



**寒さの中に温かい心を**

立春間近の大寒の季節です。種子島はまだ、昨年ほどには寒波襲来がないのですが、それでも週末は少し寒くなりそうです。とは言え、寒さの中にこそ春遠くからじわじわと寒さを味わいながら春を待つ思いも楽しみたいと思います。

九州での生活しか知らない私などは想像もできませんが、北日本の猛吹雪や暴風雪の状況は過酷の一言に尽きます。報道で大荒れの北海道の様子を見てみると、条件反射的に思いつく出来事があります。皆さんも覚えておられると思いますが、吹雪の中で命を賭して娘さんの命を守り抜いた父親のお話です。平成二十五年三月二日。北海道でも特に、厳しい寒さと雪の多い湧別町でその事故は起こりました。一年前に奥様を亡くされた漁師の岡田幹男さん(53)は、一人娘の夏音さん(9)との愛情にあふれた二人暮らしでした。明日はひな祭りという事で、ケーキを予約してささやかなパーティーを楽しみにしていた二人に、猛烈な暴風雪が襲いかかりました。学童に夏音さんを迎えに行った帰り道、視界不良で車が雪に乗り上げてしまったのです。すぐに友人に携帯で助けを呼びますが、この猛吹雪の中、友人は外にも出られず、消防署に助けを求めますが、多くの救助依頼で動けないとの事。車の燃料も無くなりそうなので、近くの知人の家へ歩いて行くと言いつつ連絡が途絶えました。ホワイトアウトの中を彷徨い、ようやく倉庫を見つけたが、どうしても開かなくてはいけません。三日の早朝、警察官が二人を発見しました。岡田さんは着ていた薄手のジャンパーを夏音ちゃんに着せ、雪が入ってこないように、両手で強く覆いかぶさるように抱きしめて亡くなった瞬間から十時間の間、父は、祈る思いで娘を抱き続けたのでした。

奥さん亡き後、心の灯火であったであろう娘を自分の体温で暖め、命の灯火が消えた後もずっと暖め守り抜いた業は、人が為し得る最大の愛ではないでしょうか。この無償の愛の結果、夏音ちゃんは凍傷だけで済み、奇跡の生還を遂げたのです。このことを思い出す度に、私は涙を禁じ得ません。つい最近も父親が実の娘を虐待死させる事件が起こりました。何がそうしたのか想像すらできませんが、守れた命がみすみす失われたことは残念で仕方ありません。この父親は、岡田さんの生き様を知らなかつたのでしょうか。子どもを生み育てる尊さを改めて噛みしめる今日この頃です。

おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなと一緒に表現して楽しみます。小さい子どもたちが、他の表現の動きをよく覚えておくことにも驚かされます。この主體的で自由な活動を導くためにおゆうぎ会があると一言でも過言ではないでしょう。寒さが厳しくとも、暦の上ではもう春。次第に日差しや肌に触れる風が、心地よくなってきています。冬ごもりしていた土の中の虫たちが這い出てくる季節。残り少ない三学期を楽しむ春はもうそこまで来ています。

**～甘えた人が成長できる～  
 “甘え”は自立の土台**

子どもたちは園生活の中で、甘えたくてもグッとこらえて一日のサイクルについていこうとがんばっています。なので、家庭に帰るとたくさん甘えてくるお子さんも多いのではないのでしょうか。自立させていくためには甘えさせてはいけないのでは？と思うかもしれませんが、家庭は無条件に自分を大事にしてくれる場所。たくさん甘えさせてあげてください。

一人で出来ることでもあえてお願いしてやってもらうと子どもは「自分はとっても愛されている」と感じます。わざわざお願いしてやってもらおうとするのは、親の気持ちを試したり確認しようとしている証拠。自分の要求を「いいよ」と言ってもらえるのかどうか、親にとって自分は特別な存在なのかどうかを確認したがるのかもしれない。そこで「自分で出来るでしょう」と強制してしまうより「今日はやってほしい気分なんだね」と共感してあげる方が、将来的には心豊かに育つとされています。

子どもは親との絆を深めようと、生まれつき人に備わっている「甘え」という欲求を様々に出してきます。「甘え」を十分に受け止められた子どもは「自分を守ってくれる安全基地」の確保に安心し外の世界へと興味を持ち、世界を広げていきます。このように子どもの心は「甘えたい(依存)」気持ちと「自分でしたい(自立)」気持ちをループのように行き来しながら成長していきます。

厳しさに耐えて甘えない人が成長するのではなく、実は甘えて良い時期に充分甘えた人が成長するのです。甘えて良い時期とは年齢に“つ”がついている間、つまり九つまでは充分に甘え(情緒的甘え)させて良いという説もあります。

**自立の基になるのは意欲**です。意欲は安心感から湧き出るもの。自立していける人は、充分に甘えて安心感をもらった人です。家の中は子どもにとって無条件に自分を受け入れて愛してくれる場所なので、甘えたりしても「まあ、いいかな」と受け止めて愛情をたっぷり注いであげてください。

